

# 放デイほたる 支援プログラム

令和6年10月1日作成

## 《社会福祉法人 いなほ福祉会の理念》

- ・ 障害のある人を主人公とし、「生活」「労働」をとおして、一人ひとりの豊かな発達と社会的自立をめざします。
- ・ 障害者福祉の拠点として、障害のある人や家族の願いにもとづき、安心して生活が送れるよう福祉事業の整備と機能の充実をめざします。
- ・ 地域との相互理解を深めながら、共に暮らしていける地域社会をめざします。
- ・ 関係者の相違にもとづき、民主的な運営・経営を行います。

## 《放デイほたるの支援方針》

放デイほたるでは小学生から高校生までの発達につまずきのある児童や障害を持つ子どもとその家族に対して、学校の放課後や長期休みの日中活動を保障し、療育の場の中で、障害の固定化の予防や、日常生活における基本的動作の習得及び集団生活に適應できるよう、集団で余暇を楽しむ生活の中で適切な指導や援助を行い、豊かな育ちを保障します。

加えて保護者が見通しを持った子育てが行えるよう生活上の困難に対する支援をし、また懇談会や学習会などを通してサポートを行います。子ども一人一人の意思及び人格を尊重して、常に児童の立場にたったサービス提供を務めます。

地域の結びつきを重視し、関係市町村・学校・他の障害福祉サービス事業やその他保健医療サービスおよび福祉サービスを提供する物との連携を行っていきます。

## 《営業時間・サービス提供時間》

### 営業日・サービス提供日

月曜日から金曜日

第1土曜日・第3土曜日（行事等によりその他の土曜日のサービス提供もあります）

（但し、日曜日、国民の祝日、8月12日～15日、12月30日～1月4日その他法人が定めた休日を除きます）

### 営業時間

学校開校日は、午前9時30分から午後6時まで

学校休校日は、午前8時30分から午後5時まで

### サービス提供時間

学校開校日は、午前1時00分から午後5時15分まで

学校休校日は、午前9時30分から午後4時00分まで

## 学童保育事業（集団療育）

### <ねらい>

午前の学校での主たる活動を済ませた後の活動なので、より家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごしています。生活年齢を重視した活動や、集団の中での友達を意識した活動で生活の力や社会性を培います。また積極的に地域に出向き、社会参加をする機会を設けます。

友達とする楽しい遊びや生活経験、季節の取り組みや行事の体験を通して子ども達の意欲を育て、主体性や社会性を身に付け自己肯定感を持つ豊かな人格を育みます。

### <送迎>

迎え：送迎を希望する利用児の通う学校と事業所間で実施します。

送り：送迎を希望する利用児の居宅または近隣の待合所と事業所間で実施します。

### <支援内容>

#### ① 健康・生活

放課後は、学校での主たる活動の後なので、ほっこりと安心できるよう、ゆったりと過ごします。荷物の片付けや宿題など、身の回りの事を自分でわかって取り組むよう、毎日の繰り返しの中で経験を重ねます。一日活動では様々な集団活動や地域にも出向き、様々な経験ができるように活動します。また学齢期それぞれの年齢と共に起こる体と心の変化や、一人一人の生活の課題に寄り添った支援を実施します。日常の生活や遊びを通しての生活技術を習得するための援助を行います。

## ② 運動・感覚

戸外でのあそびや、散歩、自転車、簡単なスポーツ、公園にお出かけしての感覚統合のあそび等、生活の中に身体を意図的に使う活動を多く取り入れています。全身運動や協調運動、粗大運動や微細運動等、様々な身体の動きを取り入れることで、姿勢保持や体幹の発達等、実年齢や発達年齢に応じた身体の発達を促します。

外へ出るときは帽子をかぶる、プールでは水着を着る、暑いときには半袖を着る、寒い日には長袖や上着を着る等、季節やTPOに合わせたものを身に着けることで感覚を広げます。また、四季折々の自然の事物での遊び、虫探し等、様々な素材に触れる機会を作ります。

## ③ 認知・行動

五感をフルに刺激する散歩を取り入れる等、感覚を刺激する活動を取り入れています。

生活の至る場面で選択肢を提示し、どちらか選び取るという経験を積む中で、子どもの主体性を育みます。公共の場所での遊びや大好きなおやつの買い物、クッキング等の活動経験を通して、場所に合わせた立ち居振る舞いや必要な計算、調理の段取りや必要な道具の使い方等、繰り返し経験を積む中で自信と生活の力を育みます。

## ③ 言語・コミュニケーション

コミュニケーションの土台となる信頼関係を育みながら、発語が出ていない子どもや発語が出ているがどう伝えたらいいかわからない子どもには、具体的な事物に言葉を付けて理解を促したり、表情や身振り手振り等を用いてコミュニケーションに必要な基礎の力を身に付けるよう支援します。言葉は出ているが、場面にあった言葉が出にくい子どもには、将来社会で生きていく為の手段の一つとなるよう、年齢相応の状況に応じた主体的なコミュニケーションスキルを身に付けられるように、自分の気持ちを言葉にする事、相手の気持ちを知る事等を具体的な生活場面の中で支援します。

## ④ 人間関係・社会性

子どもが基本的な信頼感を大人に持つ事ができるよう肯定的な声掛けを意識して関わっています。また異年齢集団での活動を主にしながら、生活年齢に合わせたグループ活動を通して仲間意識を育んだり、高学年への憧れの気持ちを育む中で真似をしたり一緒にしたい気持ちを育んでいます。自由活動では子どもの好きな遊びをゆったりと楽しむ時間を取り、その後集団活動や集団遊びに誘って参加する機会を作っています。様々な活動の中で友達とやりとりする機会を増やし、生活の至る場面で、みんなが揃うまで待つや順番に取りに行く、男女を意識する、勝ち負けの経験をする等、ルールや社会性を育む遊び等を取り入れています。

### <主な行事>

夏の取り組み      クリスマス会      卒業おめでとう会      等

## 放デイほたるの放課後のながれ（集団療育）

### 下校時刻 学校迎え 登 所



送迎の車で学校から帰ってきます。靴を脱いで靴箱へ入れ  
ランドセルやカバンからほたるのノートを出して、所定の所に置きます。自分の持ち物を意識したり、整理します。

### 宿 題 自由活動

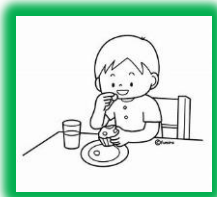


宿題がある子どもは宿題をやりませう。それが終わったら、好きな遊びをたっぷりする時間です。季節の遊びや集団での伝承遊び、カードゲームやスポーツ、楽しい遊びを通して友達との関わりも広げていきます。学校から帰ってホッと一息つく時間でもあります。

### 16:00 片付け

自由活動で遊んだ道具を、自分で片付けます。自分で片付けることで、気持ちに区切りをつけて次の活動へとうつっていきます。

### 16:10 おやつ



子ども達の大好きな時間です。自分達で机を準備して台拭きで机を拭きます。その後手洗いうがいをしてお楽しみの時間です。

大小のカゴの中にある好きなお菓子を選びます。列に並んで順番を待つ事もルールの一つです。大のカゴからは2個、または小のカゴから5個。大きい1個と小さい2個等、自分で選択して選び取ります。

### 活 動



散歩・制作・ゲーム・スポーツ・公園・買い物・クッキング等様々な活動を楽しむ時間です。友達と一緒に楽しむ放課後の中で余暇の楽しさを広げています。

### 17:00 片付け・掃除



自分が使用した遊具は自分で片づけて活動の区切りを付けます。物の場所を知り、整理する事も大切な生活の力です。雑巾を濡らしてしっかり絞り掃除をして帰る準備をします。

### 17:10 あつまり

皆で集まって椅子に座り、その日の子どものリーダーが帰りのあつまりを進めます。その日楽しかった事をそれぞれの子ども達が振り返って、一日を締めくくります。

### 17:15 降所・送迎

忘れ物のないように確認して、送迎車で帰ります。保護者の送迎を待つ子どももいます。どの子どもも笑顔一杯で帰っていきます。

## 放デイほたるの土曜日・長期休暇中のながれ（集団療育）

**9:30 送迎・登所**

**宿題**

**自由活動**



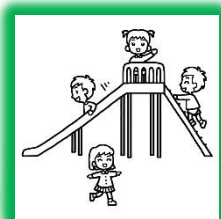
**10:00 あつまり**

**体操**

家庭から送迎車に乗り込みます。保護者に送迎してもらう子どももいます。カバンを片づけてから宿題のある子どもは宿題にとりかかります。外や室内で自分の好きな遊びをゆったり楽しむ時間です。

日替わりで子どものリーダーがあつまりを進めます。本日の日程や給食のメニュー等を伝えて、当日の活動の見通しをみんなで持ちます。その後ラジオ体操をして、心身共に目覚めます。

**活動①**



**12:00 昼食**

**給食・お弁当**

長期休暇中等の休校日は、主たる活動の場になりますので、放課後ではできない長い散歩・お出掛け・制作・ゲーム・スポーツ・公園・買い物・クッキング等様々な活動を楽しみます。

長期休暇中には給食、土曜日はお弁当やクッキング等子ども達が楽しみにしている時間です。友達と一緒に楽しい雰囲気の中で、苦手な食べ物に挑戦したり、道具を使い分けて食べたり、食事のマナーや食の幅を広げたり等様々な力を付けます。



**13:00 活動②**



午前の活動と午後からの活動で静と動になるように組み立てています。午前が部屋での活動だと、午後はお出掛けや買い物など、メリハリのある生活になるようにしています。夏はほぼ毎日プールに出掛け、着脱の力や、水慣れからはじまり水との楽しさを存分に味わいます。思いっきり心と体を発散させる子ども達が楽しみにしている活動です。

**15:00 おやつ**

**自由活動**



**片付け・掃除**

**15:45 あつまり**

**16:00 降所・送迎**

自分達で机を準備して台拭きで机を拭きます。その後手洗いうがいをしてお楽しみの時間です。

長期休暇中や休校日には、おやつクッキングをしてこの時間に食べたり、お金を持っておやつの買い物に行き、子ども達が自分で好きなお菓子をを選んで食べたりする事もあります。

忘れ物のないように確認して、送迎車で帰ります。保護者の送迎を待つ子どももいます。どの子も笑顔一杯で帰っていきます。

## 個別療育

### <ねらい>

療育目標を設定した個別プログラムに沿って、専門性をもった職員が個別指導を実施します。

### <専門職員>

言語聴覚士・臨床心理士（公認心理師）

### <期間>

1時間／回 1回／月 半年から1年間

### <保育・療育内容>

- ①アセスメントを実施し、目標を保護者の方と一緒に決めた上で、その目標に向けて個別療育を実施します。
- ②目標をたてる際には、5領域（健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性）のどの課題に充てた取り組みをするかを明確にし専門的支援計画に明記したうえで、その内容に沿った個別療育を実施します。

### <送迎>

送迎は実施しません。

## 保護者支援

### <ねらい>

放デイほたるでは、具体的な家庭生活における手だてを保護者とともに考え、アドバイスをしています。

### <取り組み内容>

#### 保護者学習会(年1回)・保護者懇談会(年2回)

保護者の要望を聞かせて頂き、その時の保護者集団のニーズに沿った学習会を開催しています。内容としては、福祉制度について、メディア依存について等々、保護者の方々のご意見も参考にしながら内容を決めています。保護者懇談会では放デイでの子どもの姿を知って頂くと共に、それぞれの家庭の様子を伺ったり、年齢差の大きい子どもを持つ保護者集団になりますので、子育てに悩む事を出し合う中で見通しを持った子育ての為の情報共有の場となっています。

## 移行支援

### <ねらい>

地域の関係機関の方々と情報を共有して連携を図りながら、所属する学校や地域の学童事業所、またライフステージの切り替えを見据えた将来的な移行に向けた準備等、スムーズに移行できるよう支援します。

また社会に出た時を見据えて身に付けたい力を明確にし、自分の生活、自分のお金、自分の自由な余暇の時間も楽しむ力を付けるようその課題に沿った支援を実施します。

### <取り組み内容>

## ① ライフステージの切り替えを見据えた支援

学年の移行期や就労等、ライフステージの切り替え場面での情報共有の際にはほたるでの活動を見に来て頂き、日常の生活状態を見ていただくと共に、必要な支援や配慮について説明する等、情報共有を行います。

各関係機関の方々と連携し、支援の構築に努めます。

## ② 地域で生きていくことを見越しての移行支援の視点

- ・ 困ったことがある時に、周りの人に助けを求める力
- ・ 仲間と一緒にするのが楽しいという気持ちを育む
- ・ 人に対する安心感を育む
- ・ ありのままの自分を好きと思える自己肯定感の充実
- ・ 周りの人からの必要な支援を受け止める土台作り
- ・ 自由な余暇の時間を楽しむ力
- ・ 自分の好きな事を選択する力
- ・ 自立を見据えての生活の力(買い物・公共交通機関・炊事・掃除等)

## 地域支援・地域連携

### <ねらい>

各関係機関や主に子ども達の主たる活動の場である所属の学校と連携を取りながら、学校での生活の様子、また放デイでの活動の様子を情報共有し、子どもを中心に支えていく支援を行っていきます。

### <取り組み内容>

#### ① 所属学校との連携

下校の送迎時を有効活用して日常的に情報共有を行うと共に、子どもを取り巻く関係機関の方々と共に情報共有を行っています。また、ケース検討会議等に参加し所属の学校の教育活動を踏まえ、役割分担等を共有できるよう、具体的な場面での子どもとの関わり方の提案や関わり方について情報共有を行っています。

#### ② 市町の保健師および各相談機関との連携

子どもを中心に、関係機関の方々と連携した支援が行えるよう、市町の保健師の方々と計画相談員、学校職員の方々等、各所担当機関の方々と共に協働連携しています。

#### ③ 研修会の参加

地域の関係機関の方々の要望や地域の課題に合わせた研修会に参加し、施設職員の支援の質の向上や、地域の課題を共に考える等の取り組みを行っています。

## 職員の質の向上

### <ねらい>

子ども達の発達のみちすじと発達段階を知り、通園が大切にする子ども像を共有し、生活を通して豊かに育っていく人格形成を共に目指し、助け合い認め合いながら、子どもの発達段

階に応じて意欲と成功体験を育める楽しい保育を提供し、職員自身も人生の経験者として豊かな人格をもって子どもと接することができるよう、研修計画をたて、職員の質の向上に努めています。

#### <取り組み内容>

##### ① 発達に関する研修

職員一人一人の経験や個性に応じ、学習会の開催、書籍による啓発、外部研修への参加等、適宜研修を行っています。

##### ② 関わりについて協議を行う

毎日の子どもの様子を保育終了後話し合い対応について情報共有する、PDCA サイクルにて子どもの姿に応じた仮説や振り返りを行い、職員一人一人が意見を表明できる場づくりを行いながら、子どもにとっても利益があり、職員も日々成長できるよう協議の場を大切にしています。

##### ③ 生き生きと働ける環境づくり

人を大切にする仕事であることを念頭に、職員の思いややりがいにも目を向け、子どもが大切にされ、保育に集中して業務が行える職場環境づくりを目指しています。